



遺伝性乳がん卵巣がん(HBOC)に対する 診療体制を確立しました

産科婦人科 診療科長 京 哲

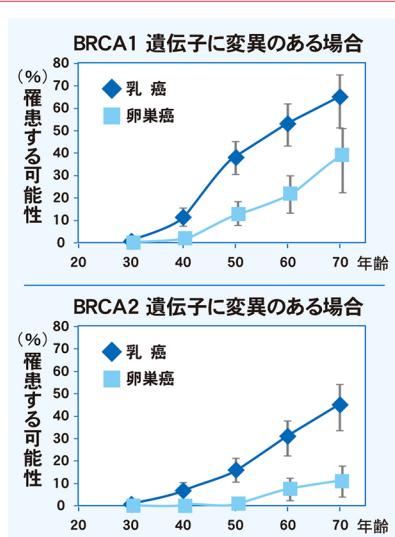
当院ではこの度、HBOCに対する遺伝子検査、カウンセリング、リスク低減卵巣、卵管切除術(RRSO)を行う包括的診療体制を整えましたのでご報告致します。

遺伝性乳がん卵巣がん(Hereditary Breast and Ovarian Cancer:HBOC)とは?

乳がん、卵巣がんのうち遺伝要因がはっきりわかっているがんの一つで、新規に発生する我が国の卵巣がん、乳がんのそれぞれ約1割を占めます。DNAの修復を司るBRCA1またはBRCA2の遺伝子の変異が発症に関与します。母親、父親からそれぞれ1つずつ、合計2本受け継ぐ遺伝子のうち、片方にBRCA1またはBRCA2の変異があれば病気が発症する可能性がある常染色体優性遺伝で、両親のうち一人がHBOCであれば、子供がHBOCになる可能性は50%です。

BRCA1またはBRCA2に異常があるHBOCの方の場合、がんになる確率は年齢と共に上昇し(図)、卵巣がんになる可能性は通常の10～40倍、乳がんになる可能性は6～12倍程度と考えられます。

そのため、HBOCの家系では何人の親戚が卵巣がんや乳がんにかかるという現象がみられます。HBOCの特徴として若くして乳がん、卵巣がんになる、乳がんと卵巣がんの両方にかかる、左右両方の乳がんになる、男性でも乳がんになる、などが挙げられます。そこで、卵巣がんや乳がんになられた方に対して、ご自身にほかのがんがないか、血のつながった親戚が卵巣がんや乳がんなどにかかったひとがいないか、詳しく尋ねることがHBOCを発見する契機になります。



HBOCを診断するための手順と検査法

HBOCの診断はBRCA1、BRCA2の遺伝子検査によって行われます。まず、家族歴を詳細に聞き取り、遺伝子検査を行うべきかどうかを判断します。遺伝子検査で「BRCA1、BRCA2に遺伝子異常がある」という結果になった場合は、調べた本人のみならず親戚にも心理的な側面を含め、さまざまな影響を及ぼす可能性があるので、十分に配慮した上で対応する必要があります。家族歴からHBOCが疑われたり、乳がんや卵巣がんを発症された患者さんでHBOCを心配されている患者さんに対して、当院では臨床遺伝診療部および遺伝性婦人科腫瘍外来にて遺伝子検査の必要性、検査結果、予防法についての綿密なカウンセリングを行っております。BRCA検査も当院でお受けいただく事が出来ます。

HBOCと診断された場合、医療管理にはどのような選択肢があるのか?

がんになっていない未発症のBRCA1、BRCA2遺伝子変異のある方に対しては、リスク低減卵巣卵管切除術(risk reducing salpingo-oophorectomy: RRSO)が現在のところ最も確実性の高い卵巣がんおよび乳がんの予防策とされています。RRSOは卵巣卵管を切除することによって卵巣がんや卵管がんになる危険性を少なくします。また、卵巣から分泌される女性ホルモンは乳がんの発生を助長するので、卵巣を切除すれば乳がんになる危険性が大幅に減ることが観察されています。当科では倫理委員会の承認を得て、平成29年6月よりRRSOを行う体制を整えました。

BRCA検査、遺伝カウンセリング、RRSOについては当院地域連携センター(0853-20-2061)もしくは遺伝性婦人科腫瘍外来(0853-20-2389)まで遠慮なくお問い合わせ下さい。